

# 熊本観光のビジョン

黒田正巳

観光とは、むずかしいものだが、同時に意義のあることだ。観光客という「姿の見えない対象」が相手。観光の条件づくりにしても、一種の「夢」を現実のものにする努力が行なわれるわけだから。そして一郷土の観光をささえる最も大切なものは、人々の郷土を知り、郷土を愛する心なから。

観光の主な対象は自然美と芸術美である。山、川、海などは自然美を、人工の建物、庭、橋、仏像などは芸術美を現わす。地方の風俗や芸能も芸術美に数えてもよい。奈良や京都は、すぐれた自然美ももつが、芸術美において日本を代表するのために、第一級の観光地だということができる。天の橋立や松島は自然美で、宮島は厳島神社の芸術美によって日本三景と言われた。

## 美しいくまもとの風土……

熊本県の観光は、芸術美よりむしろ自然美において知られている。これをてっ

美しい海岸線も随所に……★



は白い波と巨岩。緑川上流の深山峡谷。球磨川の速い流れ。菊池川の溪流などが自然美の主なものである。芸術美の筆頭は、豪快な石垣と城郭建築で知られた熊本城。数々の民俗芸能など。そして体と心の汚れを洗う温泉も多い。

## かけがえない自然……

この美しい熊本の風土の中にも昔から人が住んでいた。彼等は働き疲れると、ふと手を休めて山を仰ぎ流れにつかかって疲れをいやしたであろう。街道を往来する人は並木の旅の苦しさを忘れたであろう。そして病に苦しむ人は湯治に出かけ、何年に一べんかは物見遊山に行ったであろう。このころの自然は、おそらく人が住む以前とあまりちがわない姿をしていたであろう。草ぶきの屋根は、野山にはえる草むらのようにあり、橋は川に

でざわぐ団体観光客。その先頭に立って旗を振る案内人。花を折りあきかんと投げ捨てるマイカー族。浴衣で放歌する温泉客。そんな客から金をまき上げる商人。その商人に使われる地元の勤労のきらいな青少年。山を掘り谷を埋めて直線に走る道路。ゴツゴツとした骨のような橋。四角な窓がならんだ箱のような建物。所かまわずニコニコ立っている広告塔。ゴミとあきかんの山。騒音。

これが「観光」と聞くと私の頭の中に浮んでくるイメージである。北斎や広重の絵と何とちがったものであろう。広重における自然と人と人工物の完全な融合と、今の人の造ったものみにくさ、またその離反の姿とを比べてみる。自然美と芸術美のみごとな融合、それは自然と人の調和と同じものであるが、私は熊本観光のビジョンをここにおきたい。このビジョンを実現するためにど



★風景、干草の天、面白い

大いなる遺産……

その次に大切なことは、観光によって金もうけをする。これは、自分が額に汗を流して働いて造ったものを売っ

うしたらいいであろうか。

一番大切なことは、自然は人間の力で造ることができないもの、かけがえのない貴重なるものであることをはっきりと認識することである。人間の進歩した技術によって自然を改造し、また自然の一部を造ることは不可能ではない。しかしそれは無限ではなく、むしろほんの一部しかない。特に樹木はそうである。樹木は自然が、しかも何百年もかかって造りあげたものである。数億円のビルは数年で出来るが、大津街道の杉並木は数百年は決してできないのである。このように自然が貴重なるものであることがわかれば、自然を畏敬し大切にしようという気持が生まれてくるであろう。それだけではない。自分が生まれ育った郷土の自然は身近なわれわれが大切にしなければならぬこともしっかり認識する必要がある。そのためには郷土の自然をよく知るねばならぬ。知ることと愛することは同じことであるから。こうして初めて熊本の郷土の自然は熊本の人々によって守られるであろう。

でもうけるのではなく、郷土の自然が造ってくれたもの、先祖が造ってくれた芸術によって、もうけさせてもらうのだということを、はっきり認識することである。いわば、自ら働くことなく、自然と先祖の遺産によって食わせてもらっているのだということの正しい認識である。この認識があれば、その自然と芸術を敬い愛する気持が生まれるであろう。そして与えられた遺産の上にあぐらをかくだけではなく、働いて何かを造り出すことは尊いことだということがわかるであろう。のみならず、その遺産に自分たちも何かを加えなければならぬということに気づくであろう。

ある所で、道をまっすぐに直すために、人家を移転するか、巨木を切るかしなければならなくなったが、家を移転するには補償費が要るのに、木を切れば金がかからぬだけでなく木を売ればもうかるから、木を切ろうかという話があったというのを聞いた。補償費は何万円かかるか知らぬが、その巨木は何億円を積んでも今日の姿に育てることはできないことを、はっきり認識すべきであると思う。こういう浅い思慮が、各地で貴重な郷土の自然をこわして行くのである。

宿の女中さん、ハイヤーの運転士に、土地の名、その名の由来、野に咲く花、木の名を聞いても知らぬことが多い。みやげ物店の売りも郷土民芸のことを知らない。学校の先生が郷土の自然や文化財

★キレイに観光地を



## 産業と観光……

先ず、熊本の観光は、ただ風景のもつ自然美だけを見せるのではなく、産業と結びついた風景を見せるものにした。風景に結びつきやすい産業は、農業、林業、漁業、牧畜業などである。手入れの行きとどいた田畑はすでにそれだけでりっぱな自然美である。天草や芦北の段々畑を見るがいい。自然の地形に合わせ、段を築き、水を引き、道を廻らし、その一枚一枚が、季節によって、桃色、黄色、緑色と色を変え、夜には田毎の月さえ映す。有明海に臨む山のミカン畑は